

## 平成30年度 県立牛久栄進高等学校自己評価表

目指す 学校像	情報通信技術や科学技術の劇的な進歩、国際化・経済のグローバル化、更には超高齢化等急速に変化する社会にあって、それらに柔軟に対応できる力を育むと同時 に、豊かな人間的資質を培い、自主自律の態度を養い、進取の気概あふれる創造性豊かな青年を育成する。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>普通科単位制高校に改編した平成10年以降、「活力ある進学校づくりー単位制のメリットを生かし、主体的に学習する生徒の育成ー」を一貫して組織目標として継承し、「活力ある進学校」「個に応じた学習指導」「自主独立の人づくり」を中期的目標として、教職員と生徒との信頼関係をもとに学校全体が一つになって取り組んできた。</p>	<p>教科指導 ー 授業は真剣勝負 ー</p>	<p>ア 単位制のメリットを生かした教育課程の編成及び1分を大切に授業の実施により、生徒の学力向上を図るとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、教員研修を奨励し、授業研究及び授業改善を推進する。 イ すべての教科が連携し、学校全体で生徒を育てるという協働意欲を持って教育活動に取り組む。</p>	4
	<p>特別活動 ー 部活動や生徒会活動の充実 ー</p>	<p>ア 学校生活における様々な活動をととして自主的精神を養い、行動力を培うとともに、より良い人間関係の形成を図ることにより「生きる力」が育まれると考え、生徒の特別活動への参加を奨励する。 イ 計画から運営まで生徒が主体的に参画できる学校行事の充実に努め、生徒の能力を十分に生かした活力ある学校づくりを推進する。</p>	3
<p>その結果、国公立大学に毎年100名前後の現役合格者を輩出するようになり、今年度は現役国公立大学合格者数119名であった。</p>	<p>生徒指導 ー 社会的責任を自覚し行動できる生徒の育成 ー</p>	<p>ア 全職員の共通理解に基づいた指導を行い、学校生活全般において生徒の規範意識の高揚と道徳的実践力の向上を図り、自律性を育てる。 イ 生命の尊さを認識させるとともに、交通安全、不審者、ネット犯罪等を対象とする安全教育を重視し、生徒の危機察知能力、危機回避能力を高め、事故の未然防止に努める。</p>	3
<p>これは、生徒一人一人の進学希望実現に向け、単位制の特長を最大限生かして、きめ細かな教科指導・進学指導に取り組んできた結果と考えられる。単位制改編後の飛躍的な進学実績の躍進を評価するとともに、今後も単位制の特性を生かした様々な取組みを積極的に推し進め、生徒一人一人の進学希望を実現していきたい。</p>	<p>進路指導 ー 生徒一人一人の特性を生かした指導ー</p>	<p>ア 本校は、今年度の大学入試結果において、国公立大学119名、私立大学は延べ608名の現役合格者を出しています。今後も教員一人一人が進路指導力を高め、生徒の夢を高い次元で実現できるよう研鑽に努める。 イ 各年次と進路指導部内の「e-Top推進室」が連携し、難関大学への進路希望実現に向けて情報提供及び学習指導の充実を図る。</p>	3
<p>また、規範意識を高める教育を継続して進めるとともに、さらに豊かな心を育てる教育や安全・防災教育にも力を注ぎ、生徒の自立に向け、取り組んでいかねばならない。</p>	<p>国際理解教育の推進 ー 国際交流と海外派遣 ー</p>	<p>ア 国際交流事業を通じて生徒の視野を広げ、国際理解に努めることにより、グローバル社会で活躍できる人材を育成する。 イ 今年度はアメリカ合衆国への海外派遣を実施し、世界を肌で感じ、外から自分自身や自国を見直すことにより、異文化を理解し尊重するグローバル意識を育てる。</p>	4
	<p>保護者及び地域社会との連携 ー 積極的な情報発信 ー</p>	<p>ア 学校ホームページや「栄進ホットメール」（学校・保護者・生徒を結ぶ携帯連絡網）、メディア等を活用し、牛久栄進高校の教育活動や学校の情報を積極的に発信する。 イ 保護者と教員が常に連携協力して生徒たちの教育に当たる。 ウ オープンハイスクールや各種説明会、中学校訪問等を通じて牛久栄進高校についての理解をさらに深めていただけるよう努める。</p>	4

		エ 地元である牛久市主催の行事等に積極的に参加して地域との連携を強化し、地域社会の期待に応え、信頼される学校づくりに努める。				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題		
教科指導	学力の増進と生徒の家庭学習の充実を図る。	生徒が目的意識を持って自主的、意欲的、継続的に学習する態度を育成する指導の工夫改善を図る。	4	4	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、各教科でより一層研修を続ける。観点別学習状況の評価の効果的な実践について、教科内で研究する。	
		各教科、各年次における週末課題や、生活・学習の記録「進路手帳」等の活用について連携し、家庭での学習を確立させる。	4			
	学習指導法の改善に努める。	生徒一人一人の能力・進路に応じて、少人数授業・T T授業・小テスト・学力向上ゼミ等を実施する。また、3年間を見通した指導計画に基づき、指導法や教材の選択などを工夫・研究する。	4			
	観点別学習指導及び観点別学習状況評価の研究に努める。	観点別学習指導の趣旨を生かした、豊かな内容ときめの細かな学習指導の研究に努め、観点別学習状況の評価について研究を進める。	3			
教 科	国 語	基礎学力の定着と発展的学習のための指導の充実を図る。	科目担当者間の連携を密にし教授資料や授業方法の共有化を図ると共に、授業の工夫と改善を図る。	4	3	自ら学ぶ力を強化するための指導法をさらに研究し、授業の工夫と改善を行う。
			生徒に適した教科書教材を精選すると共に、これからの求められる学力を視野に新しい教材を検討する。	3		
		自ら学ぶ力の強化を図る。	家庭学習を習慣化するための課題や小テストを工夫し実施する。	3		
			自ら学ぶ力を強化するための指導を工夫すると共に、問題集や参考書を精選し使用する。	3		
	地 歴 公 民	生徒の基礎学力向上を目指した授業の工夫を行う。	小テストなどを適宜実施して、基礎的・基本的事項の定着を図る。また、視聴覚教材の開発やI T機器の利用などを通じて、授業内容の充実を図る。	4	3	思考力・判断力・表現力を高めるための指導法を取り入れた授業を実施できるよう努める。
		多面的なものの方と思考力の育成を図る。	科目担当者間の連携を密にして情報交換を行うとともに、史料や各種統計資料の積極的活用、テーマ学習への取り組みなどを通し、社会的・歴史的・地理的事象に対する主体的分析力・考察力を涵養する。	3		
	数 学	学力の向上を目指した指導を充実する。	課題提出や小テストを定期的に行い、学習習慣の確立を図る。	4	4	アクティブラーニングをどのように授業に導入しつつ、教科書の進度を保つかどうか。
			科目担当者の連携を密にし、授業の進め方や学力の定着度合の分析を行い、課題を明確にして指導に生かす。	4		
		個に応じた授業の充実を図る。	T Tをはじめ、問題演習時間を増やして主体的に取り組むことのできる授業を実践する。	4		
	理 科	日常の授業を通じて科学的な観察力・思考力を育成する。	実験や実習を効果的に取り入れ、生徒の興味・関心を高めると共に科学的な思考力の育成を図る。	4	4	大学入試の二次力（記述力）を習得する授業の展開を継続する為に、単位制を活かした少人数授業の展開を図りたい。
		基礎学力の充実を図り、センター試験のみではなく、2次力までの養成をはかる。	教科書を中心に基礎学力の徹底的な育成を目指し、相互の授業参観・考査問題研究を積極的に行い、さらに入試問題の研究をすすめる、教員の指導力を高める。	4		
	保 健 ・ 体 育	授業内容の充実を図る。(体育)	生徒の体力向上及び個人技術の段階的な向上を図り、ゲームを工夫する。	4	3	事故防止のための日常点検は継続。生徒の自主的な行動に期待し、待ちの姿勢を加えたい。
体育授業における事故防止に努める。		準備運動の徹底を図り、安全・健康に留意して行動する態度を育てる。施設・設備の安全確認を励行し、事故防止に努める。	3			
授業内容の充実を図る。(保健)		視聴覚教材を積極的に活用した授業を展開し、健康の保持・増進のための実践的な能力を育てる。	3			
芸	基礎的・基本的な内容の確実な定着を図ることにより、創造的な能力を育てる。	可能な限り個々に応じた丁寧な指導を目指す。	4	3	アクティブラーニングを日々の授業に取り入れる。	
		各種コンクールへの出場・出展を促すとともに、入賞できるような効果的指導を目指す。	3			

教 科	術	生徒一人一人が、実践的・体験的な諸活動に主体的に取り組むことにより、芸術を愛好する心情を養う。	さまざまなジャンルの音楽会・展覧会等を紹介する。	3		
			新聞記事等から豊富な話題を提供する。	3		
			展示コーナーの活用を図る。	3		
	家庭	基礎的・基本的な知識と技術を理解させ、実践的な能力の向上を図る。	最新の情報を取り入れながら興味・関心のもてる教材を取り入れ、理解しやすい授業を工夫し展開する。	3	3	実習をとおして体験経験を増やす。
			実験・実習・視覚教材などの体験学習を多く取り入れ、ノート提出や課題など点検を通して学習態度の育成を図る。			
		作品の完成・提出により達成感を持たせる。	実験・実習などを通して各種技能・知識の向上を図る。	3		
	英 語	英語の学力を向上させる。	教科書の予習復習を中心とした学習法を徹底させる。	3	3	定期的に授業参観を行い、英語科内での指導技術研鑽を図る。 年次内だけでなく、年次間の連携を密にし、中期的教科指導法を見直し、改善していく。
			サイドリーダー、週末課題、長文問題集、文法問題集、単語集等、副教材を吟味し質的量的充実を図る。	3		
			定期考査結果、模試結果をその都度分析し活用する。	3		
		授業研究の徹底を図る。	定期的に授業研究を実施することによって、指導技術研鑽を図る。	2		
			科会等を通じて、年次内・年次間の連携を密にし、教材の共有や中短期的教科指導法を見直し、改善していく。	3		
	情 報	生徒の情報活用能力の育成を図る。	学校行事と連携した学習課題を題材とし、生徒の関心を高め、情報の収集・処理・発信などの実習を行う。	4	3	基礎・基本の定着を図るため、興味・関心を高める教材の開発。実習内容の改善を進める。
情報モラルやセキュリティなど、情報機器や情報通信ネットワークを活用していく上で配慮すべきことを考えさせる。			3			
教員の授業実践力の向上を図る。		校外の研修を通して、優れた実践事例等に学ぶことに努める。	3			

教 務	授業時間の確保に努め、授業技術のレベルアップを図る。	授業交換や填補を確実に行うとともに、行事の精選・日程の工夫等により、授業時間の確保に努める。	4	4	新教育課程導入に向けて ①主体的な学習のための授業の工夫 ②深い学びの達成のための教育課程の工夫に取り組む。
		授業・指導法に関する研究協議、公開授業等を実施する。また、授業評価等を取り入れながら、授業の質の向上と優れた技術の共有化を図り、教科・年次・分掌間の連携を基にした組織的な指導体制の構築に努める。	4		
		単位制のメリットを生かした教育課程編成の工夫を行う。	3		
	地域社会に対して本校教育活動等の情報発信等に努める。	ホームページやインフォメーション(学校案内)等の内容を充実させる。また中学生対象のEishinオープンハイスクール、学校公開等を通して、積極的に本校の情報提供やPRを行う。	4		
特別活動	生徒会活動のさらなる活発化を図る。	学校行事に積極的に参加させることで、委員会活動やHR活動の活発化を図り生徒が自主的に考えて行動できるようにする。	4	3	生徒会費の値上げ、または予算の縮小に取り組む。 更なる活動の充実を図る。
	部活動への積極的参加を図る。	大会、コンクール等における各部の実績内容を定期的にPRすることで、部活動への参加率を上げ生徒の自主的、実践的な態度を育てる。	3		

生徒指導	生徒の規範意識を高めるとともに、基本的な生活習慣の育成に努める。	全職員の共通認識のもと、頭髮・服装指導をあらゆる機会を通じて継続的に実施する。 登下校指導やマナーアップキャンペーンにおいて、生徒の主体的な参加・活動を促す。また、登下校指導への保護者の参加・協力を促進する。	3 3	3	服装指導における各年次との連携を図る。 登下校中の交通マナーについて更なる改善を図る 事件事故に遭遇したときの対処法を周知徹底する。
	自他の生命を尊重する精神を養うとともに、豊かな心を育成する。	通学路において、定期的に登下校指導を実施するとともに、危険箇所の把握、情報提供を実施し、事故の未然防止に努める。 HRや「道徳」、交通安全講話・いじめ防止教室・薬物乱用防止教室等の学校行事をととして、自他の人権、生命の尊重及び危機管理意識を養う。 いじめの問題の克服に向けて、計画的に未然防止・早期発見につとめる。	3 4		
進路指導	生徒一人一人の希望進路実現を学校全体で支援する。	「進路手帳」「進路の足跡」「進路便り」などの発行、及び受験関係図書の有効な活用を図るとともに、面談週間に充実させる。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>先進校視察の継続的な実施。</li> <li>進路手帳の改訂。</li> <li>小論文関係書籍の充実。</li> <li>進路指導ポイント共有。</li> </ul>
	国公立大及び難関私立大への進学率の向上を図る。	先進校視察、Fine-system、Kei-Naviなどによる学力分析、進路検討会、進路講演会などを行うとともに、「e-Top推進室」を中心に、難関大学への指導方法の提案、低年次からの生徒への意識付けを行う。	3		
保健厚生	生徒自らによる心身の健康管理能力を養う。	疾病予防や早期発見のために健康診断と事後指導を確実に行う。 心身の健康状態の把握に努め、健康相談、助言・指導を行う。	4 3	3	校舎も古くなっているため安全点検の実施とその対応の徹底、および校舎内の清掃徹底に努める。
	生徒の学校生活での福利厚生及び校舎内外の環境美化を計画的に推進する。	日本スポーツ振興センターおよび奨学生の事務取扱を円滑に行う。 パン・牛乳販売の連絡を円滑に行う。 校内の安全点検や清掃の徹底、及び校内外の環境美化運動を通して生徒の美化意識を高揚させる。	4 4 3		
	防災意識を高め非常時に適切な行動がとれるようにする。	緊急避難体制を確立させ、地震を想定した避難訓練を実施する。	3		
図書館	蔵書資料の充実を図る。	年度当初に各教科の購入希望図書を把握し、速やかに対応する。さらに授業での利用を意識した蔵書資料の拡充を行う。生徒向け図書については、図書委員の意見を積極的に取り入れ、時宜に合わせて購入していく。また新刊情報収集や小論文テーマのトレンド把握に努め、蔵書資料の充実を図る。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>各分野各学部関連書籍を充実させる。</li> <li>授業利用教科の拡大とさらなる生徒の学習活動支援に努める。</li> </ul>
	図書館利用の増加を図り、生徒の学習活動の支援をする。	読書や学習に必要な書籍の情報を提供するとともに、図書委員との打ち合わせを密にし、生徒を引きつける書籍の展示方法を工夫する。また読書スペースや学習室として利用しやすい環境整備に努める。	4		
	視聴覚機器の整備及び円滑な利用に努める。	視聴覚機器の整備・充実を図り、学校行事等での放送機材の円滑な運用に努める。	3		
渉外	会議・委員会を円滑に進める。	係分担を明確にし、分かりやすい資料で会議が円滑に進むよう十分な事前準備をする。	3	3	教職員、保護者との連絡を密に取れるよう努める。
	保護者が参加しやすい活動を展開する。	会員が参加しやすい研修や、興味ある内容を盛り込んだ講座を企画するために各種委員会運営を円滑に行う。	4		
教育相談	カウンセリングを実践する。	問題を抱える生徒の早期発見に努める。 生徒・保護者・職員に対する、スクールカウンセラーを活用した相談活動を行う。	4 3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクールカウンセリング日数の確保、または一日の面談数の増加。</li> </ul>
	特別支援教育の充実を図る。	特別支援を必要とする生徒に対してより適切な指導を行う。 ニーズの度合いに応じてケース会議、職員会議、あるいは職員研修を実施し、共通理解を深める。	3		
1年次	基本的な生活習慣を確立させ、規範意識を養う。	遅刻指導や提出物の期限を守らせる指導を通して、時間厳守の精神を養う。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>上位層の意欲喚起、e-Top課外の検討。</li> <li>課題以外の自律的な学習（予習復習、苦手分野の克服）を促す。</li> </ul>
		服装指導、登校指導、挨拶の励行などを通して、規範意識の向上を図る。	3		
		家庭との連絡を密にし、生徒が抱える問題の早期発見や問題行動の防止に努める。	3		
	学習習慣を確立させ、基礎学力の充実をはかる。	予習・復習を徹底させることで、授業を大切に、授業に真剣に参加する姿勢を養う。 週末課題や小テストを計画的に実施し、基礎学力の定着を図る。	3 4		

		校内の考査や校外模試の結果を分析して、教科指導や進路指導に反映させる。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室や自習室，特別学習会の利用促進。</li> <li>・Classiと進路手帳の併用，教員からの働きかけの見直し。</li> <li>・教員，生徒間での目標の共有。</li> </ul>
	自己理解をうながすことで、進路に対する意識を高め、将来を見据えた進路選択ができるようにする。	面談や「進路手帳」の提出を通して、自らの現状を確認させるとともに、自主的・計画的に学習する姿勢を養う。	3	
		大学・研究所訪問や職業人講話等の進路学習への参加を通して、自己理解を深め、進路意識を向上させる。	3	
	特別活動や道徳を通して、集団における自己の在り方を見つめさせ、思いやりの心を養う。	年次通信，進路説明会，保護者面談などによって保護者との連携を密にし、進路情報の共有を図る。	4	
		部活動や学校行事に積極的に参加させ、協調の精神とたくましい心を養う。	3	
	C E Sタイム（道徳）を通して、他者の生き方に触れ、自己を見つめることで、視野を広げ、思いやりと奉仕の精神を育成する。	3		
2年次	授業の充実と生徒の学習意欲を高める工夫により、基礎学力の更なる定着を図る。	予習・復習を徹底させ、小テストや追試を計画的に実施することで、授業を大切に、授業に真剣に参加する姿勢を養う。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受動的な学習から、能動的学習へのスムーズな転換。</li> <li>・希望進路実現に向けて、学習指導および個々に応じた進路指導の充実。</li> <li>・落ち着いた学校生活を送ることができる為の指導の充実。</li> </ul>
		面談や「進路手帳」の提出を通して、生徒自らの現状を把握させるとともに、自主的・計画的に学習する姿勢を養う。	3	
		毎週の課題やゼミの計画的な実施を通じて、課外学習を促進し、基礎学力の定着を図る。	3	
	大学研究，および学部・学科研究を深めることで、進路意識を高め、将来を見据えた進路設計ができるようにする。	様々な進路学習への参加，およびオープンキャンパスへの参加と報告書の作成を通して、自己理解を深め、進路意識を向上させる。	3	
		小論文学習や模擬志望理由書の作成を通じて、自己分析力を向上させ、進路意識の高揚をはかる。	3	
		進路説明会の実施，保護者面談などによって保護者との連携を密にし、家庭における進路意識の向上と、情報の共有を図る。	3	
	特別活動や総合学習の時間等を通して、集団における自己の在り方を見つめさせ、充実した高校生活の実現を図る。	部活動や学校行事に積極的に参加させ、協調の精神とたくましい心を養う。	3	
	実り多い修学旅行とするために事前・事後学習を充実させ、また修学旅行を通して集団行動のなかでの協調性や連帯感を醸成する。	4		
	「道徳プラス」の実施により、道徳的判断力や道徳的実践意欲と態度を身につけさせる。	3		
3年次	学力の向上と伸長を目指す指導と、個々の生徒にあわせた進路指導体制の充実を図る。	授業の充実を図り、塾・予備校に頼らずとも学力を伸ばせる環境を整え、生徒の目線を学校へ向かせる努力を全体で遂行する。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての教科の授業内容の充実度を増し、生徒の意識を学校へ向かせる努力がより一層必要。</li> <li>・ゼミ・課外への参加者の継続率向上。</li> </ul>
		年次内で生徒の進路情報を共有して生徒理解に努め、個別面談等を通して個に応じた進路情報を提供する。	3	
		難易度に応じた様々なゼミを実施することにより、生徒の能力に応じた学習の場を提供し、個々のニーズに応え、多様な進路実現の場を提供する。	3	
		保護者対象の進路研修会を実施し、保護者への進路情報の提供と生徒情報の共有に努める。	4	
	高校3年間の総括として、全生徒が充実した学校生活を送ることができるように十分な支援を行う。	最高年次としての誇りと責任感を意識させて、学校行事への積極的参加を促す。また、特別活動や部活動等への参加を通じて、協調精神とリーダーシップを育成する。	4	
		高校生らしい服装・容儀の指導を徹底し、自立を促す指導を行う。	3	
	個別面談や保護者との連絡を密にして、生徒が抱える問題へのきめ細やかな対応を心がける。	4		

評価基準：「4」大変よく出来ている 「3」よく出来ている 「2」やや不十分 「1」不十分 「0」わからない